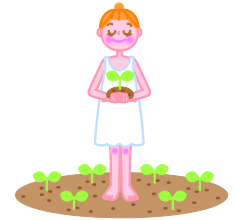


Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2012年12月

今年度のテーマは「子どもの自立」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

子どもの自立

能代市社会教育指導員 高畑 勉

山里にある小規模校、Y小学校。修学旅行は、いつもほかの小規模校と合同でおこなっている。行き先は津軽海峡を越えて函館へ1泊2日。海を見られる、船に乗れる、友だちと泊まれる、夜は枕投げもできるかなと思うと、子どもたちは飛び上がるほどうれしい。

1日目の旅程は好天にも恵まれ、日中は元気いっぱい函館を楽しんだ。あとは、夕食をとり、函館山から市内の夜景を見るだけとなった。

さて、お楽しみの夕食。献立は、なんと「十勝牛のすき焼き」である。子どもたちの顔は、これ以上ないというぐらい、笑顔、笑顔である。やがて、肉の香ばしい匂いが部屋じゅうに立ちこめ、いやがうえにも食欲をそそった。肉は逃げやしないのに、「いただきます」の合図と同時に我を争って食べ始めるのは、いつもの修学旅行の、ほほえましくも楽しい食事風景である。

そんななか、箸も手にとらず、うつむいたままの女の子がいた。

「すき焼き、嫌いなの？」

「いいえ」

「どこか、具合が悪いの？」

「いいえ」

「じゃあ、どうして食べないの？」

「……………」



これは何かあると思って、別室で女の子に事情を聞いた。すると答えて言うことには「卵を割れないんです」とのこと。ほかの学校の子どももいる手前、気恥ずかしさがあったのだろう。この女の子の家族は、いらぬ世話を焼いて、いつも卵を割ってやっていたのだ。

この女の子に限らず「このごろの子どもたちに、できないことが増えてきている」とあちこちで耳にする。例えば「朝、自分で起きられない」「箸をしっかりと使えない」「TPOに合わせて衣服を選べない」「骨のある魚を食べられない」「ワガママを自分で抑えられない」……さて、このまま大人になったらどうするんでしょうと、少し心配だ。

「おつかい」にも同じことが言える。「〇〇ちゃん、晩ごはん、すき焼きにするから、お肉買ってきて」と言われたら、あなたの子どもはできるだろうか？ お母さんから渡されたお金、家族構成、どんなお肉を何グラム買えば良いかななどを素早く計算して買ってきて、はじめて「おつかい」をしたということにならないだろうか。お母さんのメモどおりに買ってばかりいたのでは、ほんとうの「おつかい」とは言えない気がする。

親の役割は、子どもが自立して生きていけるよう導くこと。子どもの将来の自立に役立つことは積極的に取り入れ、そうでないことは、すぐにでも見直してみしてほしい。

おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



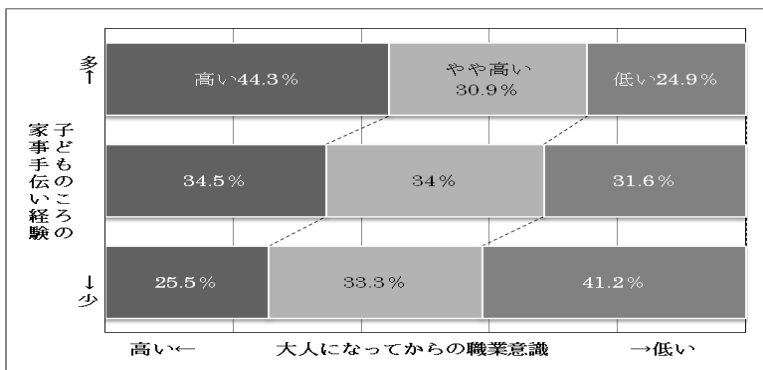
辰巳 渚の『子どもを伸ばす』シリーズ / 辰巳 渚 著 (岩崎書店)

大ベストセラー『捨てる！ 技術』の著者が示す子育て哲学。どのシリーズを読んでも、やっぱり、家庭での日々のくらしが生きていく基本になるのだなあと感じます。「手を動かすと心が動く」「心が動いたときに、おのずから手が動く」……人の心を豊かにしていくものは何なのか、教えてもらえるシリーズです。

データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかもしれません。

子どものころの「家事手伝い」経験と「職業意識」の関係



(独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」(平成22年度)より

左のデータは、20~60代の成人を対象に、子どものころの体験が大人になってからの考え方や行動にどう影響しているのかを調査した結果のうちの一つです。

子どものころ、洗濯物を干したり、ゴミを出したり、掃除をしたり、食器をそろえるなど、家事を手伝った経験のある人ほど、働くことに対して前向きで、社会や人のためになる仕事がしたいと考えていることがわかります。

ひとつ@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にとるひとつをご紹介します。



親と子の「心のかけ橋」をしっかりと築くこと。何か感情をもって子どもが発信してきたとき、親は解釈せず、必ず子どもに確認をする。これが一方通行にならない方法です。以前は私も口から何か言葉が出ていればコミュニケーションをしていると思っていました。今は、コミュニケーションは一方向的にやることではないなあ、と感じています。

(親業訓練インストラクター 鈴木聡子氏 「子育てを楽しくする3つのコツ」より)

ひとりで悩まない。それが究極の上手な悩み方です。いっしょに悩んでくれる人がいれば、たいへいは、どんなことでも大丈夫なんです。家族や友だちのほかにも、もう1人、信頼できる大人をみつけてほしい。注意はするが怒らず、励ましとアドバイスをくれて、何をしても態度が変わらない、「また、おいで」と言ってくれる、そんな大人を。

(秋田大学大学院医学系研究科 准教授 佐々木久長氏 「悩んだとき、どうしていますか」より)



思い出を子育てに役立てる

子どものころを思い出してみ、一番心に残っていることはなんでしょう？ うれしかったこと、ワクワクしたこと……その感覚を掘りおこして、子どもとの関わりに役立ててみましょう。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

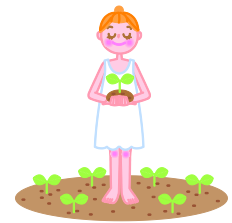
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2013年3月

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

友 情

能代市社会教育指導員 高畑 勉

運動部に所属する中学3年生の最大の夢、「全県総体出場」をかけた夏の予選がせまり、その激励会が、ここ〇市立I中学校体育館で、熱気に包まれながらおこなわれた。

激励会も終わりにさしかかろうとしたとき、突然、ステージ上にいた野球部主将のA君が、全校生徒に向かってこう呼びかけた。

「みなさん。ぼくたち3年生は、1年生のときから一所懸命練習して、この日を迎えました。しかし残念ながら、そのうち3人がユニフォームをもらえず、全校生からの激励を受けることができませんでした。

でも、ぼくたちは仲間です。いっしょに辛い練習をしてきた仲間です。ユニフォームはもらえなかったけれど、大事な、仲間です。

全校のみなさん！ その3人の名前を呼びますので、ぼくたちと同じように大きな拍手を送ってください。ぼくたちは、必ず全県総体へ出場します。そのときは、3人の仲間もいっしょに連れていきます！」



そうしてA君は3人の名前を次々に呼んだ。呼び終わるや否や、間髪入れずに体育館を揺るがすような大きな拍手がわきおこった。なかには、ハンカチを握りしめている女生徒もいた。期せずして、体育館に「野球部！ 野球部！」という大コールがおこった。

3人は予期しない事態にびっくりしたものの、しっかりと胸をはって拍手に応えていた。この3人はベンチ入りこそできなかったが、実力的には僅差だった。練習も皆と共に一所懸命にがんばっていた。3人はこのとき、3年間の努力が報われたと思ったに違いない。きっと、ユニフォームをもらう以上の喜びを感じたに違いない。

主将のA君は、後輩たちに「厳しい練習に励まし合っていっしょに耐えた仲間は、ユニフォームを着ても着ていなくとも固い友情で結ばれている」と、ここでしっかりと伝えたのだ。そしてこの場にいた生徒たちは、汗と涙を流して野球の技術をみがくことも大事だが、互いに助け合い、思いやり合う友をつくることがもっと大事であることを、多感な青春時代に学んだことだろう。

この話を「I中学校ではあたりまえ」と語るT校長をみて、子どもたちを教育するということは、こういうことなんだと思った。「育てたように子は育つ」と言われるが、こう在りたいという志が人と人とのあいだで響き合って、人の心を育てていく。T校長の高い志のもとI中学校で学んだ生徒たちは、今後も良き美風をいろいろな場に吹き込み、その教えを脈々と伝えていくことだろう。

ちなみに、この3人のうちの1人は高校でも野球を続け、甲子園でユニフォーム姿を披露してくれた。努力は続けるもの。努力さえしていれば、人生の補欠になることはないのだ。

👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



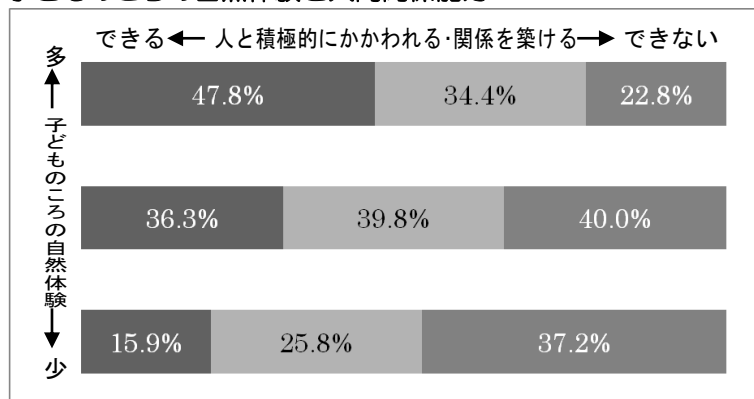
『反抗期子育て乗り越えマニュアル』 諸富 祥彦／監修 主婦の友社子育て取材班／編

思春期の子どもとどうつきあえばいいのか分からないときは、この1冊。アンケート結果をもとに反抗期のタイプを4分類し、それぞれの体験談を紹介しています。『うちの子もしかして反抗期?』と思ったら読む本』も併せてどうぞ！

👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかもしれません。

子どもころの自然体験と人間関係能力



(独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書(平成22年度)より

前号に引き続き、子どもころの体験と大人になってからの行動や考え方との関係を調査した結果のうち、ちょっとおもしろいデータをご紹介します。

自然体験と人間関係を築く能力に何の関係が?と思われるかもしれません。しかし、人の知的・情緒的成長にとって、実は自然体験がとても大きな位置を占めていることが、この調査からわかったのです。

自然いっぱいのが能代! どんな教材を準備するより、まずは野山に出かけましょう!

👍 ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、そのなかから心にのこるひとことをご紹介します。

「自子中心」主義ではいけない。この場合、「己」ではなく「子」です。自分の子どもだけ困って、我が子のことだけしかみていない育て方だと、子どもは伸びないですよ。子どもは、「社会の子ども」としてみなさい。(能上 正男 氏 「小学校入学にそなえて」より)

大きくなればなるほど、子どもには親友が必要になります。その親友をどうして選んだのかというと、「遊び」からです。子どもは遊びのなかで何を勉強しているのかというと、相手は今何を考えているのかなあというのを、その子の表情やしぐさや、言葉で見抜く。そういうことを学んでいます。遊びの目的は、それひとつです。それができないと、親友ができないんです。勉強も大事です。しかし、りっぱな社会人になるためには、遊びというものが、もっと大事なんです。(金田 昭三 氏 「小学校就学に備えて」より)



編集後記

1号からコラムを担当してくださっていた高畑先生が、3月いっぱいまで能代市社会教育指導員を退任されます。先生のコラムの一番最初の読者として、毎回楽しみに、そして、ときに涙ぐみながら読ませていただきました。

本当にありがとうございました。これからもどうぞ私たちにご指導ください。

乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2013年8月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

しつけ

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

子育てにおける「しつけ」について考えてみたいと思います。

「しつけ」という言葉「躰」は、日本で考案された漢字（国字）で、峠、凧、畑などが仲間です。この漢字を分解すると「身」と「美」になり、「身だしなみを美しくする」と解釈されています。また「着物のしつけ」と結びついたもので、仮に縫いつけておくこと、転じて子どもが一人前になれるよう粹組みを与えることという解釈もあります。

どちらの解釈からも、「子どもがよりよい人生を送るために、社会人として必要なことを、幼児のうちに身に付けること」と理解できます。

この「しつけ」という言葉を聞くと、思い出すことがあります。

ずいぶん昔になりますが、スポーツ少年団（野球）の指導をしていたころのことです。子どもたちの「靴の脱ぎ方」が気になり、いつも注意し、指導するのですが、なかなか成果があがらず悩んでいました。

そんなある時、練習試合後の懇親会の会場で、相手チームの子どもたちの靴の脱ぎ方をみて、感心させられたのです。入り口はとても整然としていて気持ちの良いものでした。どのような指導をすればこうなるのか、早速相手チームの指導者に尋ねたところ、その方が言うには、「私も最初は、一生懸命指導したのです。でもなかなか良くはなりませんでした。いろいろ考えているうちに、子どもたちにとって、靴を脱いで揃えるということは、たいして重要なことではないのだ。揃えておくことが必要と思っているのは私なのだから、私がそれをやればよいのだという思いに至ったのです。それから、私は子どもたちが脱ぎ散らかした靴を、そのつど、自分の気が済むように揃えることにしたのです。はじめたころは、揃えても揃えても、脱ぎっぱなしでいる子どもたちに腹の立つこともありましたが、そのうち、靴を揃えることが一種の楽しみになってきたんですよ。どんなに散らかっていても、今日も気の済むように、きちんと並べてやるぞ……とね。するとどうでしょうか、私が楽しみながら靴を並べるようになったら、いつの間にか子どもたちも揃えるようになり、今ではこのとおりです」と。

この時、私は学んだのです。「やれ、やれ」ではついてこない。自分が楽しんでやるからこそ、他の人もやってみたい、あるいはやろうと思うのではないかということ。

孔子の言葉にも「これを楽しむに如かず」というのがありますが、子どもにやってもらいたいと思ったら、親がそれを楽しんで行う。これがしつけのコツではないか……。

子どもは「親をまねて育つ」……あいさつがしっかりできる子にしたいならば、まず親があいさつを楽しんで、しっかりする。……いかがでしょうか。



👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



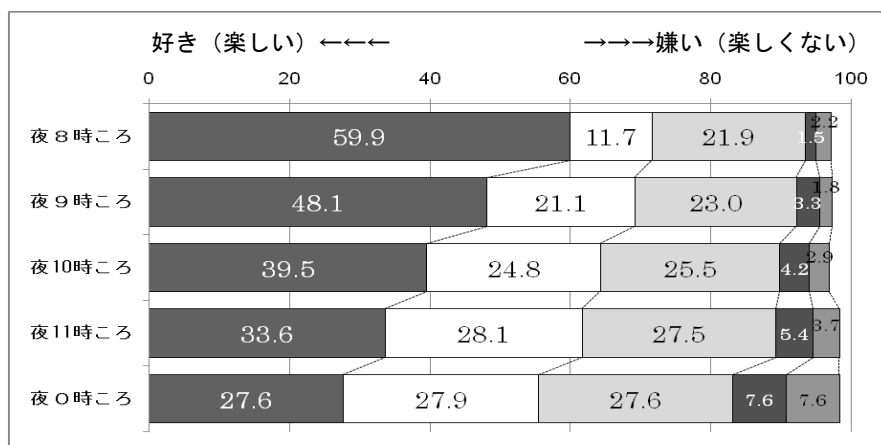
『なんでも食べる子になる1歳、2歳からの偏食解消レシピ』/監修 太田百合子(実業之日本社)

子どもが食べてくれないのは、実は「嫌い」以外の理由がありました。子どもの味覚の発達を知れば、「なんで食べてくれないの？」のモヤモヤをぬけて、発想がガラリと変わります。具体的な調理のコツやレシピのほか、好き嫌いのお悩みQ&Aも掲載されています。

👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

「学校生活は好き(楽しい)?」と「ふだん何時に寝ているか?」の関係



左のデータは、滋賀県が国の委託を受け、生活習慣の現状とそれらが子どもに与える影響を調査したものです。

「寝る子は育つ」。あたりまえのことですが、毎日十分な睡眠をとることによって心身ともに充実し、物事に前向きに取り組める子どもようすが、この調査結果からうかがえます。

さて、あなたのお子さんは何時に寝ていますか？

文部科学省委託 滋賀県家庭教育支援協議会『「子どもの生活リズム向上のための調査研究」報告書』(平成19年実施)より

👍 ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとことをご紹介します。



食べたことのないものは、子どもにとって「嫌い」。何回か食べて「嫌い」だったとしても、「うちの子これが嫌いなのね」と決めつけしないでください。味覚というのは、発達段階で変わっていくものです。何より大事なのは、嫌いだったものを食べられたときに、褒めることです。(秋田栄養短期大学栄養学科講師 工藤友子氏 「子どもの食の大切さ」より)

祖先が土から生まれたものをずっと食べてきて、遺伝してきたのが今の私たちの体。だから、昔の人が食べてこなかったものばかり食べて果たして体は健康か、それを考えてほしいのです。みんなの命は、祖先からいろんな命を受け継いできた命、そしてこれから産む赤ちゃんの命なのです。(JA全農あきた営農支援課参与 泉 牧子氏 「食卓の向こう側」より)

「キッチン・キッズ」 レシピ集公開!

能代市働く婦人の家では、年長児から小学3年生までを対象に1汁2菜とデザート子どもたちだけで調理する「キッチン・キッズ」を年6回開催しています。そのレシピ集を市ホームページで公開中! 家庭でもぜひお試しください。

<http://www.city.noshiro.akita.jp/c.html?seq=7058>

乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

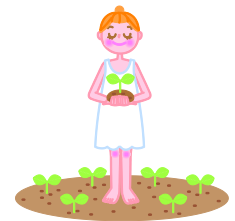
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2013年12月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

子供はまねて大きくなる～親の生き方がお手本～

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

「子どもは親の言う通りにはしないが、する通りにはする」という言葉があります。子育てにおいて、私たちはともすると、言葉で教えよう（言い聞かせよう）としがちですが、存外子どもは、聞いてくれなかったという経験は多いと思います。

だいぶ前に教育関係の機関誌に載っていた小学5年生の作文が今でも記憶に残っています。

「ほうきでチャンバラをして教室の蛍光灯のかさをわってしまった。先生に『これと同じ型の物はなかなか売っていないから困る』と叱られた。家に帰って母に言うともものすごく叱られた。『しょうがないやつやなあ、おまえは。でも弁償せんといかん』と言って、ぼくを連れて買いに行った。二軒さがしてもない。疲れたし、暑くてかなわんのではぼくは『もうやめとこ。先生にもういっぺんあやまったらええがな』と言った。でも母は黙ったまま、また遠くまで行った。四軒目にやっと見つかった。学校へ持っていき、とりかえながら、母は何とかしてぼくの乱暴をやめさせようとしたのだとしみじみ考えた。」

(※少し長いので一部分のみ掲載しました。)

「しょうがないやつ」とひどく叱りながらも、すぐ子どもを連れて夏の日盛りの中を探し歩き、「もうやめとこ」と弱音を吐き、もういっぺん謝ることですまそうとする子どもを黙って引き立て、とうとう探しあてた母親。教室の電灯にかさを付けたとき、子どもはしみじみと母の心を感じた様子が書かれています。

母のおかげでかさを付けることができたという安堵感にとどまらず、喜びとともに“母は何とかしてぼくの乱暴をやめさせようとしたのだ”という反省にまで高まったのは、口で叱るだけでなく、学校にかけた迷惑は弁償するのだという考えを、母が行動で示したからです。くどくどと小言を繰り返すこともせず、弱音を吐く子どもを無言で連れて行って探し歩いた厳しい実践です。子どもは母親の厳しさの中に、自分への愛を感じ取った

のかもしれない。“人に迷惑をかけてはいけない、かけた迷惑は償わなければならない、何かを始めたら途中で弱音を吐くな、してはいけないことはするな”ということの、無言の教えといえるのではないのでしょうか。母親は人間としての正しい行い（あるべき姿）を“して見せた”ということだと思います。

子育てに「正解」を求めることは難しいと考えますが、上記の例にひとつの方向性を見いだすことはできると思います。「子どもは見て育つ」……私たち親の生き方も大事ですね。



👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



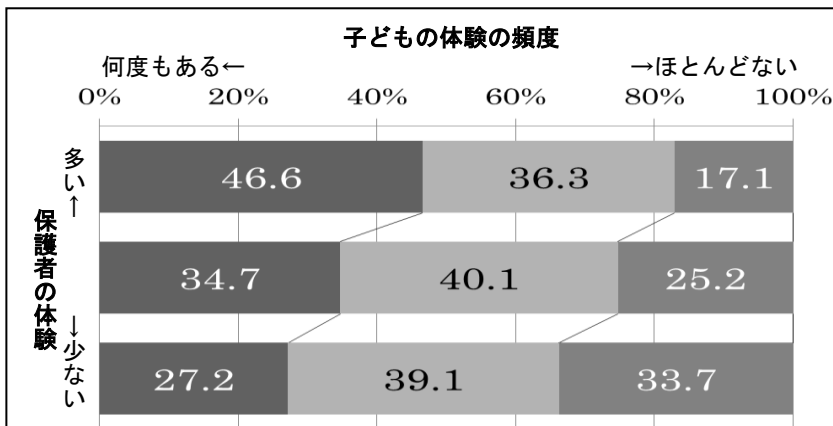
『失敗する子は伸びる』 / 岸 英光 著 (小学館)

失敗した時こそ、成長のチャンス!? 「打たれ強い子」に育てるために、親がどうサポートすればいいかを、ポイントごとにわかりやすくまとめています。わが子には失敗を恐れずに挑戦し、たとえ失敗しても自力で立ち上がれるような力をつけてほしい……そう願う方にオススメの1冊です。

👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

子どもとその保護者の体験の関係 ～ 海や川で貝を探ったり、魚を釣ったりしたこと ～



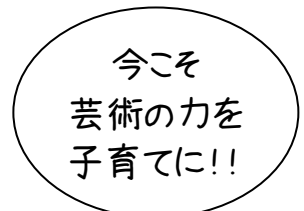
(独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書(平成22年度)より

今回は海や川での自然体験のデータを取りあげましたが、このほかにも多種多様なデータがあります。どれも一様に、子どものころたくさんの体験をした保護者ほど、その子どもも同様に多くの体験をしているという結果が出ています。

実体験は子どもの「生きる力」を育てます。「では、体験の少なかった私はどうすれば良いの?」……そんなときこそ、地域との関わりが重要になるのです。

👍 ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとことをご紹介します。



私たちの時代にはあって、今の時代になくなってしまったもの、それは「うんざりするほどの時間」と「たっぴりとした自然との関わり」です。「自然」とは、土であり、緑であり、そして生き物。「自然」はだいたい「遊びのアイテム」であり、寒いときは寒さを、暑いときは暑さを共有しながら、彼らと共に生きることで「快の記憶」をたくさん体に蓄え、そのたくさんの思い出が、私たちを大人にしていってんです。

今の時代、子どもをひとりで外に出しておくことはできなくなってしまった。だから、それらにかわるものとして、「芸術」が必要なのです。

(人形劇団ひまわり代表 永野むつみ 氏 「感動すること 育つこと ～幼児期編～」より)



子育て情報満載! 「あきた子育て情報 『いっしょにねっと。』」

『いっしょにねっと。』のWEB上で開講している「子育て・親育ち講座」では、さまざまな分野の講師陣によるきめ細やかな情報提供をおこなっています。

ぜひ一度ご覧ください。スマートフォンにも対応しています。

<http://common.pref.akita.lg.jp/kosodate/nurturing/course24/index.html>

乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

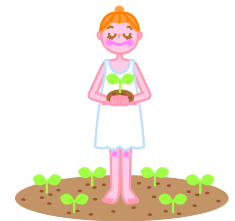
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2014年3月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

比べること

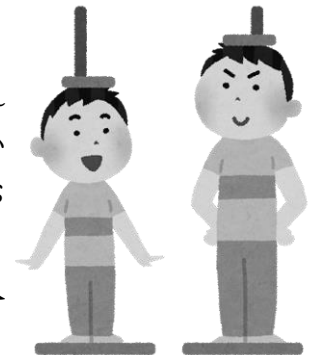
能代市社会教育指導員 佐藤 清美

子育てにおける『比べること』について考えてみたいと思います。

子育ての中で、他の子どもと我が子を「比べること」は良くないと言われることが多いと思いますが、私は「比べること」は避けられないことだという認識を持っています。従って「比べ方」を工夫するという立場で今回はお話をしたいと思います。

実際のところ、子どもというのはそんなに上手に大人の思ったとおりの人間には育っていかないものです。

例えばものすごく怒りやすかったり、手をつけられないほどの腕白だったり、内向的だったり、お調子者だったり……という具合です。子どもも大人と同様、肯定的な部分と否定的な部分を併せ持っているのです。発達というのはこういったものですから、他の子の肯定的なところだけを見て比較されても子どもは困ってしまいます。子どもにすれば、そこは劣っているかもしれないが、私にだって「いいところはあるよ」と言いたくなるのはもっともですよ。こういった子どもの心境を綴った詩があります。



私のお母さんと父さんは、すぐに近所の子と私を比べます。

隣の家の子がリレーの選手になると「あなたもあのぐらい足が速かったらよかったのに……。」

斜め前の家の子がテストの成績がいいとわかると「あなたは、どうしてもっと勉強しないの」と言います。

私は料理が上手です。それなのに「あなたは人と比べて料理が上手ね」とはほめてくれません。

比べるなら、私のいいところだって比べてほしいと思います。

他の人のいいところだけ見て比べないでほしい。

子どもでもプライドはあります。ですから、他の人のいいところだけを見て比べられるのは、やっぱりいやなのです。でも、生きていく上で、他の人と比べられることは避けられません。こういった状況の中で、「比べること」を子育ての視点から見たとき、他の子の良いところも認めつつ（比べることではなく）我が子の良いところを認める（声に出して誉める）工夫がとても大事なことだと気づくのではないのでしょうか。

個性を伸ばすということは、お互いの良いところを認めあうことが根っこにあって、初めて実現するものです。無い物ねだりではなく、あるものを伸ばすことのほうが、子どもも幸せ、親も幸せという状況を作ってくれるはずですよ。気になるところはすぐにわかりますが、良いところというものは、探さなければ気づかないことが多いものです。

探してあげましょう、子供さんの良いところを……。

👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



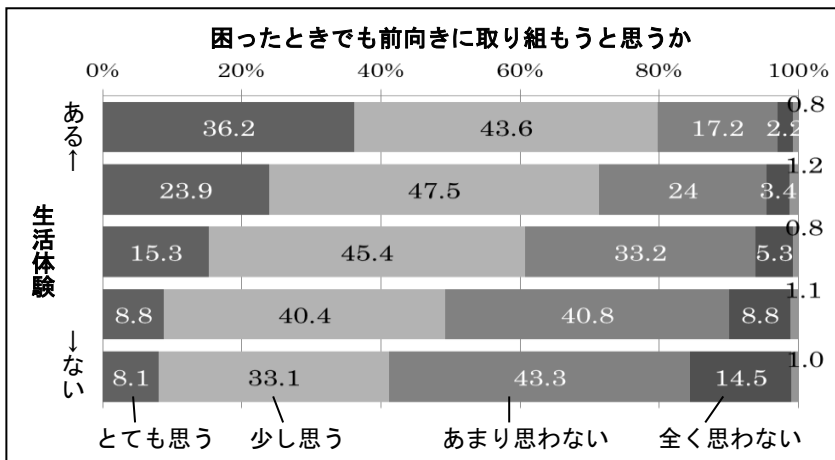
『どならない子育て』 / 伊藤 徳馬 著 (ディカガア・トゥエィツ)

「子どもをほめましょう」「どならずに接しましょう」……頭ではわかっている、そんなの無理!という方へ。子育てプログラム「COMMON SENSE・ペアレンティング」(CSP)に基づき、子どもに伝わりやすく、親の負担も減るしつけの方法を伝授します。せめて、どなる回数を減らせるように……。

👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

子どもの生活体験の頻度と困難に立ち向かう心の関係



(独)国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」報告書(平成22年度)より

「生活体験」とは、料理やそうじ、ゴミひろい、下の子供のめんどうを見るなど、家庭生活の中でふつうにできる体験です。

このほか「困っている人がいたら手助けをする」「自分の思ったことをはっきり言う」など、自立的行動を示す項目全てにおいて相関関係がみられました。

生きる力を育む基盤が家庭にあることを改めて感じる調査結果です。

👍 ひとこと@家庭教育関係講座

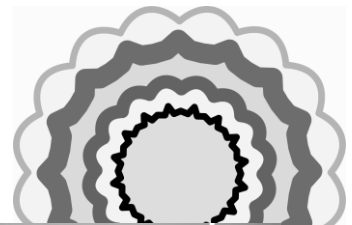
能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとことをご紹介します。

「子育ての四輪」は、家庭、学校、友だち、地域。

学校で集団生活と勉強を学び、家庭はやすらぎの場。友だちも、自分の子どもだけ良ければ良いという考え方は通用しません。全体を良くしなくては、自分の子どももよくなる。だから、人の子も、自分の子どもと同じように見て、悪いことは悪い、良いことは良いと伝えていく必要があります。そして、地域は、生活を学ぶには、とても良い場です。子ども達は、地域でいろいろなことを学ぶのです。

この四輪がうまくかみ合って回ると、子どもは、まず大丈夫です。

(能代市社会教育指導員 佐藤清美氏 「意欲と支援～可能性は無限大～」より)



『じじばばの孫かて講座』 はじまります

「イクメン」に続いて「育ばあ」「孫育て」なる言葉が脚光をあびています。能代市民のちょっと誇らしげな、とある一言「孫かてしねばやつかねぐな たったども、どっせばやったが、思い出し思い出しやってらった」に世相を感じ、能代市でも『じじばばの孫かて講座』を実施することになりました。

乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2014年7月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

ものの見方・感じ方 ～怒ること・褒めること

子育てをしていると、子どもの短所ばかり気になってしまう傾向があることは、どなたも経験済みのことと思います。しかもついついそのことを指摘して、怒ってしまう……。そして、怒ってばかりいると落ち込んだり後悔したり……。

少年は山一つ越えた学校へ一人で通学しなければならなかった。部活で遅くなった帰路などは、どきっとするような寂しい山道もある。夏はジリジリ照りつける太陽に焼かれ、冬は容赦なくたたきつける吹雪にしゃがみ込むこともあった。雨が降ると、たちまち坂道が滝になる。「ああ、もっと学校が近ければ……。この山さえなければ……。」いつも山と道が恨めしかった。

す。要は見方を変えようという気持ちがあるかどうかにかかっているのです。

子どもにとって、欠点を注意されるより長所を褒められることのほうが、どれだけうれしいか。また、親のほうとしても、注意するよりは子どもを褒めた時のほうが、気持ちがいいに決まっています。人は、自分を嫌いな人を決して好きになりません。自分を嫌いな人に対しては、自分も嫌いになります。……対人心理学の基本原則（嫌悪の報復性）

なぜ注意を受け入れないか……自分は正しいと思っている、もしくは自分がんばったが、原因が外にあり自分は悪くない。まずいと思っていたとしたら、もう本人はそのことに気づいているので心を痛めている。そこへ注意です。傷口に塩を塗るような行為を、受け入れられるでしょうか。怒るほうは、怒るなりの理由があるものですが、結局は怒りたいから怒るのです。そして残念ながらその効果は少ない。（もちろんしっかり怒らなければならないときもあります。）

子育てにおいては、叱って直すよりは、褒めて伸ばすほうが遙かに効果が上がることが立証されています。

親も気分がいい、子どもも嬉しい、そして効率的に、よりよい子育てができる……三方両得、こんな子育てを目指したいものです。



おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



『ネット依存症のことがよくわかる本』樋口 進/監修 (講談社)

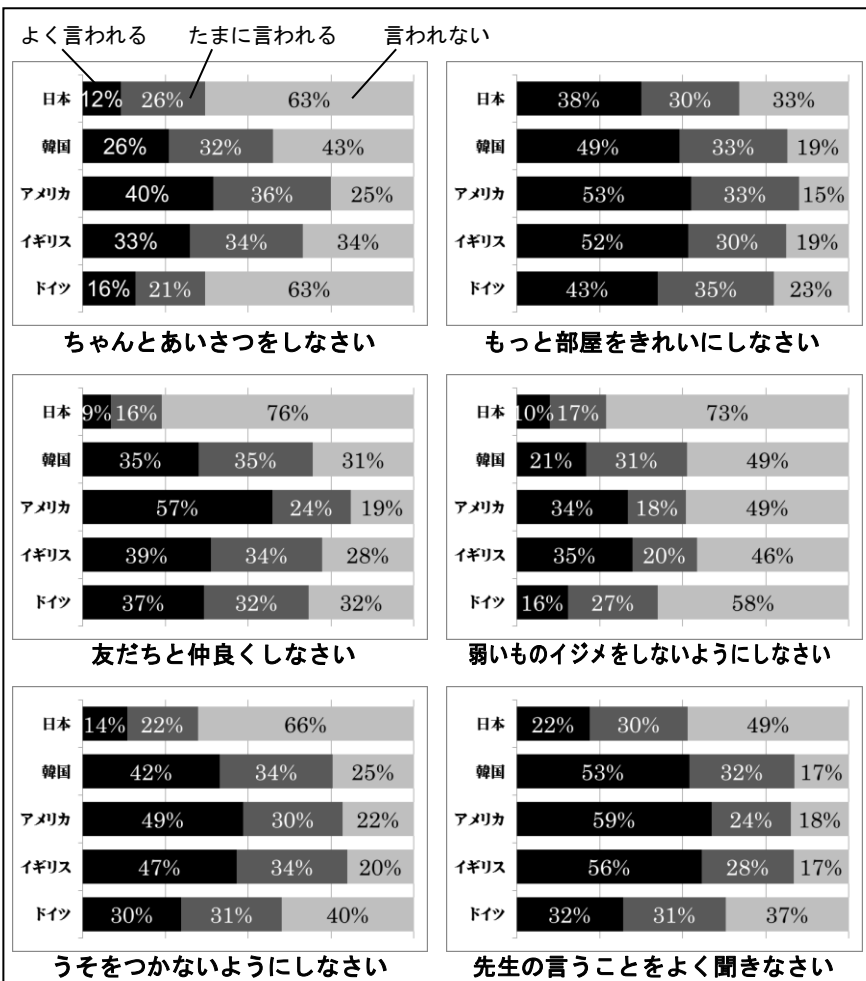
やめたくてもやめられない。そんな「ネット依存症」は、子どもにまでひろがる「心の病」です。ネット依存症にさせないための予防策や、ネットにハマる心理から治療法までを、イラストとともに解説します。依存度チェックテストも付いていますので、家族みんなでチェックしてみてください。

データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？



お父さんお母さんから言われること(頻度) 国際比較調査



興味深いデータがあったので『データでみる家庭教育』、今回は拡大版でお届けします。

さて左のデータは、小学5年生と中学2年生の子どもを対象に実施した「お父さんお母さんから、次のようなことをどのくらい言われていますか？」という調査です。

言われなくともできているからなのか、言葉による教育ではないのか、あるいは家庭ではなく別のところで言われているからなのか。ちょっと驚くくらい、日本の家庭では規律や社会のルール、道徳に関して、子どもに口で繰り返し伝えていないことがデータから見てとれます。

また、早くから子どもを自立させるイメージの国々で、意外にも子どもに繰り返し言っていることにも驚きます。「自主性の尊重」と「放任」は違う。そんなことをと考えさせられる調査結果です。

子どもの体験活動研究会「子どもの体験活動等に関する国際比較調査」(1999年) ※データをもとに集計

『子育て応援講座』開催!

秋田県では「あきた子育て情報『いっしょにねっと。』」WEB上で「子育て・親育ち講座」を実施していましたが、今年度からは好評の講師陣による公開講座も開催することになりました。テーマは「楽しく子育て! 応援講座」です。

チェック! →→→ <http://common.pref.akita.lg.jp/kosodate/>

乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2014年12月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

人の中で人は育つ ～テレビで子育て～

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

1年生の中に、授業中突然教室を出ていく子がいました。しかし、迎えに行くとおとなしく戻ってまた学習に参加します。

私は持ち前の好奇心からその子によく声かけをして接触を試みました。そのうちあることに気づきました。私の問いかけに対するその子の返事が少し変だということに……。例えば「Aさん、今朝ご飯食べましたか?」、返事「私の好きな漫画は××だよ」。「Aさん、勉強は何がすきかな?」、返事「夏は暑くて汗が出るからいやだな」……。なんか変、会話しているようで会話になっていません。

やがてそのわけは、PTAの保護者面談で判明します。

その子のお母さんはとても忙しかったらしく、幼児期の頃から、子どもには、ほとんどテレビやビデオを見せて過ごさせていたということでした。おとなしく見ているのでとても助かったといえます。私はそれまでの行動の謎が解けたような気がしました。Aさんはテレビで育ったようなものですから、私も、担任も、同級生も、みんなテレビと同じ存在で、対応も同じだったのです。テレビは、視聴者の気持ちには関係なく勝手に話し続けます。もちろん話しかけても、応えてくれることはありません。ですから、いやになったり、飽きたら、スイッチを切るか、自分が離れるしかありません。授業中、ふいと教室を出る（……自分から離れる）。私の問いはテレビの音と同じだったのです。

会話も含めて人との関わり方等について、Aさんなりに理解するまで3年の年月がかかりました。Aさんも、周りの人たちもとても難儀をしたことを思い出します。

家庭には、子どもの養護と教育の二つの役割があるといわれています。養護とは心と体の健康を守り、子どもに安心感をはぐくむための関わりです。子どもをしっかりと抱きしめて、子どもの存在を受け止めて、世話をすることです（母性的な関わり）。一方、教育とは、子どもが社会的な生活を営める自立した大人になるためにしつけをすることであり、子どもの能力を最大限活かして生きていけるように援助することです。他律から自律へとつなげ、社会での自立を確立することです（父性的な関わり）。母性的な関わりと父性的な関わりは一人でも可能なものですが、いずれにしても、子育てにおいては「人間的な関わりがとても重要なもの」ということは疑う余地がありません。「人は、人の中で人になる。」……手をかけ、目をかけ、声をかける。子育ての基本はここだと思いますが、いかがでしょうか。





おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



『一生役立つ「お金のしつけ」』 たけやきみこ 著 (ディアファクトリー)

年末年始は子どもがお金に接することの多いシーズン。こんな時こそ、子どもと一緒に「お金との付き合い方」について考えてみませんか。

本書では、おこづかいや貯金、お手伝いなど、毎日の生活で子どもに教えていく方法を紹介。エピソード・マンガ付きで読みやすい内容です。



データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

① 子どもの社会性に関わる要因 ～テレビやゲームは本当に悪者？～

※ 表中記号 ○: 正の関連性 ▲: 負の関連性 ※ 記号が多いほど関わりが強い	協調性 共感性	能動性 自己主張
子どもの月齢	○○	
兄・姉がいること	○○	
親との関係		
母親が子どもに抱く信頼感	○○○○	○○○○
親がテレビ番組選択		
メディア接触時間		
テレビ視聴時間		
ゲーム接触時間		
生活時間		
外遊び時間		
読書時間	○○	
子どもの遊び仲間の規模		
小規模	▲▲	▲▲▲
大規模		
親しい友だちとの活動頻度		
おしゃべり		
マンガ・本		
テレビ・ビデオ・ゲーム・パソコン		
外遊び		○

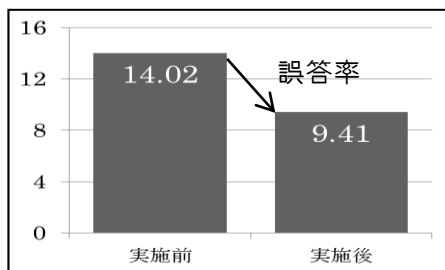
今回は「メディアと子どもの社会性」をテーマに、データを2つとりあげます。

左の表は、9歳の子どもとその家庭を対象に、子どもの社会性（他の子と協力できるか・自分から「遊ぼう」と言えるか等）と、テレビやゲームとの関連性を調べたものです。9歳児にとって“安心できる親子関係”が最も強く関連していて、続いて“遊び仲間が少なくないこと”という結果でした。

逆の言い方をすれば、単にテレビやゲームを禁止すれば“安心”なのではなく、人と関わり合うことを大切にして毎日を過ごすほうが、子どもにとってずっと価値があるということだと思います。

※データは、論文『児童期の子どもの社会性に関わる要因の検討：家庭内外におけるメディア生活に注目して』(2013 NHK「子どもに良い放送」プロジェクト第10回調査報告書 所収)をもとに編集したものです。

② 他者の感情を読み取る能力の変化 ～コミュニケーション能力は「リアル」で育つ～



論文『Five days at outdoor education camp without screens improves preteen skills with nonverbal emotion cues』(2014『Computers in Human Behavior』所収)より抜粋

アメリカ・カリフォルニア大学において、とある実験がおこなわれました。その内容は、6年生の子どもたちを50人くらい集め、5日間携帯電話やパソコン等の使用を禁止して野外キャンプに参加させ、キャンプ実施前と実施後で、他者の感情を的確に読み取る能力に変化がみられるかどうかを検証するというもの。左の表は、その結果です。まちがった割合（誤答率）をグラフにしています。

リアルな人と人との対話のなかで育っていく“力”が確実にある…「人の話を聞くときは、ちゃんと目を見て」なんて、昔からよく言われますが、科学的にも根拠がありそうですね。

いよいよ年末年始……心にのこる「年中行事」を

いよいよ「冬到来」と思ったら、あっという間に年末年始の時期です。大掃除や年越し、年始のごあいさつなど、年中行事は子どもの心にのこるもの。どうぞ、あたたかで和やかな年末年始をお過ごしください。

乳児は 肌を はなすな
幼児は 手を はなすな
少年は 目を はなすな
青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2015年3月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

子育ての基本

・代市社会教育指導員 佐藤 清美

○ 三つ子の魂百まで

「三つ子の魂百まで」という古くからのことわざがありますが、3歳までの時期が人間の成長において重要な期間であることは、脳科学や精神医学の観点からも確認されています。脳科学では、幼児期における神経回路の形成は、外界からの刺激によって促進されることが判明しています。この時期には、養育者との安定した結びつきがとても重要です。なぜなら、人間そのものに対する基礎的な安心感と信頼感が育つ時だからです。

○ しっかり抱いて、下におろして、歩かせる

子どもは、親に甘え、依存し、やがて反抗期を経て、自立していきます。このプロセスを、日本人は「しっかり抱いて、下におろして、歩かせる」という言葉で表しました。子どもの発達段階に応じた親のかかわり方をうまく言い表していると思います。「しっかり抱いて」とは、親に甘えて依存するという、親子の「愛着」形成の重要性を表しています。「下におろして、歩かせる」とは、愛着からの「分離」を意味しています。子どもは、あたたかく守られた場所から出て、自分の力で歩いていかななくてはなりません。そのためには母性原理の「愛着」を断ち切る父性原理の「分離」が必要になります。



○ 守・破・離の精神

茶華道・武道など日本伝統の諸道では、ものごとを学び初めてから独り立ちしていくまでを、「守」「破」「離」という言葉で表していますが、これを家庭教育にあてはめてみましょう。

親は、子どもが産まれると、様々な機会を通して子育ての基本を学び、一生懸命わが子を育てようとし（子育ての基本を学ぶ「守」の段階）。やがて、わが子に合わせて、あるいは、わが家の価値観にそって、自分なりに工夫して育てていこうとするでしょう（基本を応用しながら自分なりの工夫をしていく「破」の段階）。そして、わが家独自の子育て観を確立していきます（学んだものを発展させ、独自の世界を作り出す「離」の段階）。

しかしながら、千利休も歌として残しているように（「規矩作法 守りつくして破るとも 離るとても 本を忘るな」）、忘れてならないのは、基本に戻る気持ちです。基本を忘れた子育ては、独善的なものになりかねません。子どもへの愛情、家族の絆、社会規範の周知等々「しっかり抱いて、下におろし、歩かせる」といった、子育ての基本を忘れないようにしたいものです。

👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



『生きることってなんですか?』おおたとしまさ 編 (日経BP社)

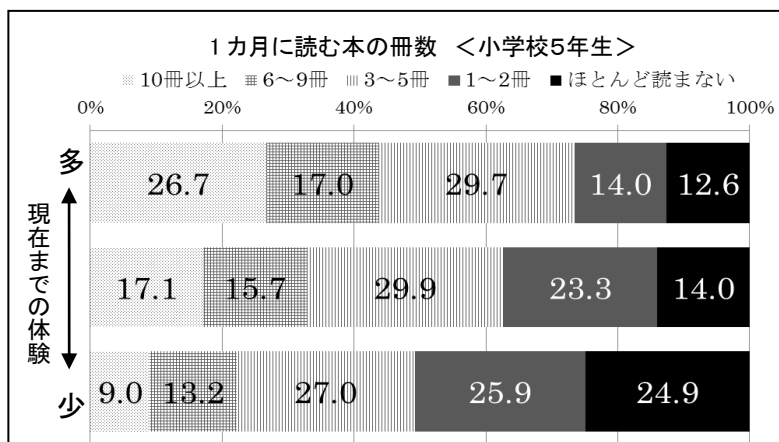
わが子に身につけてもらいたい「生きる力」——でも「生きるって何?」と聞かれたら、あなたは答えられますか? この本では、さまざまな分野で活躍する7人が「生きる力」について語っています。

子ども向けの説明と大人用の解説に分かれているので、親子で読める1冊です。

👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

体験の豊かさと本を読むことの関係 ～世界を広げていくチカラ～



(独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書(平成22年度)より

左の表は、幼少期から調査時点までどれくらい体験をしてきたかという調査と、1カ月あたり何冊本を読んでいるかという調査をクロス集計したものです。

小学校5年生というのは、本をたくさん読む時期でもあるのですが、その「読みたい」という気もちの背景に、豊かな体験があることが、データから見てとれます。

五感で感じる体験活動が、小さな子どもにとっていかに重要かを考えさせられます。

👍 ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとことをご紹介します。

誰かのことを心配できる、それが「前向きに生きる」ということです。

みなさんは、ひとりで生きているわけではない。身近な人ときちんとつながっている……私たちが一番幸せを感じられるのは、そんなときです。

あなたは誰と一緒に生きていきますか? あなたは、誰のために生きていきますか? 今、あなたのために生きてくれている人は、誰ですか? そして、今、一緒にいる人のために、あなたは何かができる? 学校のために、家族のために、地域のために、何かができる? これを考えることが、前向きに生きることです。

(秋田大学大学院医学系研究科 准教授 佐々木 久長 氏 「前向きに生きるために～辛さ乗り越えるコツ～」より)



雪解け、春を迎えるよろこび

3月。山々が、芽吹き春へとスタンバイする時期です。卒業式や入学の準備、新学年の準備など、何かと気忙しい時期ですが、ほんのちょっとだけ、ひと息ついて、子どもと一緒に季節の移り変わりに目を向けてみましょう。

乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

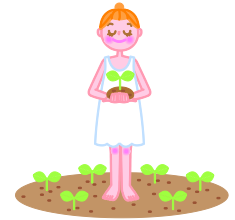
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2015年7月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

悩みの種……叱り方 その①

・代市・・・育指導員 佐藤 清美

子育ての悩みのひとつに「叱り方」があると思いますが、今回はついつい多くなってしまいう「叱ること」についての情報（その①）を提供したいと思います。

1) ～なぜ叱る～

子どもは、いろいろなことを覚えながら大人になっていきます。はじめから分かっているわけではありませので、たくさん失敗もします。一方、大人は来た道ですから、分かっていることのほうが（子どもよりは）多いものです。その結果「なぜ分からないの」と思ってしまいます。これが「叱る種」のひとつです。「あんなに言ったのに」、「いつも言っているのに」……と。



2) ～叱るときの悩み～

叱るときの悩みについて保護者の皆さんにお聞きすると

- ・イライラしてしまう。
 - ・言い過ぎて自己嫌悪に陥る。
 - ・お互いに・情的になってしまう。
- ……などが多いようです。

・) ～効果的な叱り方とは～

叱ることなく子育てができればいいのですが、現実にはなかなか難しいものです。今回は、子どもの心に響き、そして保護者の心に優しい（上記のような悩みが軽減される）効果的な叱り方を紹介したいと思います。

①今を叱る（昨日も、一昨日も……。）

叱るときは、できるだけ即座に……。過去のことを付け加えても効果はないと考えたほうがよいでしょう。できるだけ絞って叱ります。これは、叱るほうの怒りのスイッチを押さないためであり、イライラ防止のためでもあります。

②目の前のことだけ（片づけも、着替えも、・飯も……。）

今、目の前で起こったことだけに絞って、叱る。あれもできなかった、これもだめだったと付け加えていくと、叱るために叱るようになってしまい、後で、自己嫌悪に陥ってしまいます。

③子どもの「行為」を叱る（人格を叱るのは……。）

失敗した行為を叱る。どうしてそうなったのか、どうすれば良かったのかを考えさせるような叱り方をしましょう。「おまえはバカだ」、「だめな子だ」などは禁句です。子どもは失敗しながら学んでいくものです。結果だけを叱ると学びに対して消極的になってしまいます。学ぶことをやめたら、成長はのぞめません。

～ 叱るときはできるだけ「冷静に」を心がけましょう・・・～

おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



『メシが食える大人』に育つ子どもの習慣』高濱 正伸/著 (KADOKAWA)

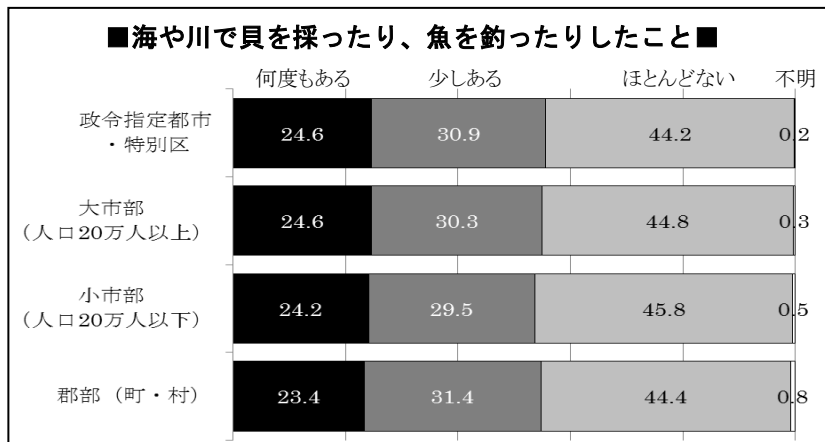
「すぐに折れない心」を子どものときから育てるための31の習慣が、具体的に紹介されています。4コママンガとともに楽しく読めて実践しやすい内容です。

わが子には自立した大人になってほしいけど、実際どうすればいいのかかわからない……そんな悩みに応える一冊です。

データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

① 都市規模と自然体験の頻度 ～「いなか体験」って何だろう？～



(独)国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」(平成22年度調査)報告書より

左の表は、青少年が居住する都市の規模と、自然体験の頻度の関連性を調査したものです。ここでは「貝を探ったり、魚を釣ったりしたこと」という項目をとりあげましたが、他の項目でも同じような結果で、都市の規模による差は、今はほとんどみられません。

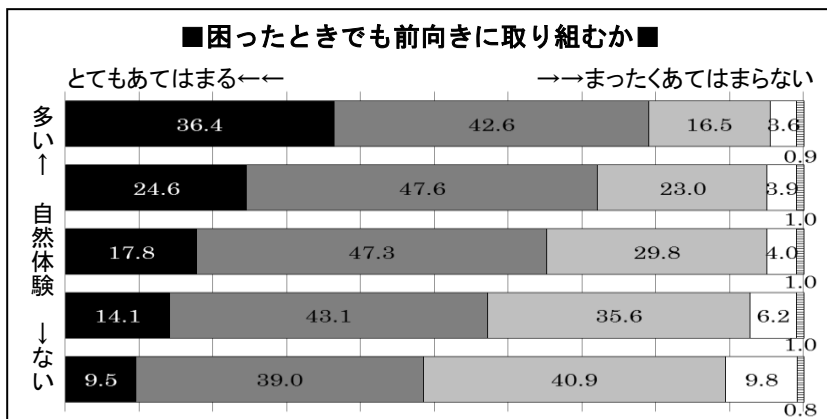
現代は、たとえ自然が豊かな地方に暮らしていても、子どものふだんの生活や遊び場とは切り離されてしまっていて、「あえて体験する」必要があるのかもしれない。

② 自然体験によって育つもの ～自然体験の頻度と「困ったときでも前向きに取り組む」意識の関係～

さて、それでは自然体験によって、子どものこういった面が育まれるのでしょうか？ 右の表は、自然体験の頻度と意識・習慣との関係を調べたものです。

自然体験を多くおこなっている子どもは、傾向として、「困ったときでも前向きに取り組む」「わからないことは、そのままにしないで調べる」など、課題解決にむきあう意識が強いという結果でした。

思いどおりにならないからこそ、自然は最高の教材だといえるのでしょう。



(独)国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」(平成22年度調査)報告書より

小・中学生は、いよいよ「夏休み」です！

お父さん、お母さんの「夏休み」の思い出は何ですか？ 楽しかったこと、嬉しかったこと、おもしろかったこと……自分が子どもだったころを振り返ってみて、この夏の思い出づくりに役立ててみましょう。

乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

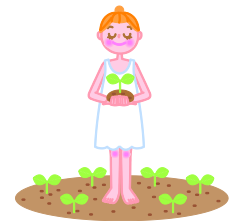
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2015年12月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

悩みの種……叱り方 その②

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

前号に続いて、「叱ること」についての情報（その2）を提供します。

～叱り方の秘訣（効果的に叱るために）～



①実現可能なことしか言わない

子どもを叱っていると、ついつい言うことを聞かせようと大げさなことを付け加えがちですが、これは逆効果です。例えば、後片づけをしたがらない子どもに「片づけなければ、おもちゃは捨てるよ」とか、好き嫌いのある子どもに「そんなに好き嫌いするなら、もうずっとおやつは無しです」など。実行できれば効果はありますが、たいていは実行できません。子どもはその時は大変だと思っても、たび重なると、「なんだ、言うだけか」と悟ってしまいます。

EX「片づけなければ、明日はおもちゃ遊びは無しです」

②関連のあるもので反省させる

「テレビを消して先に宿題をやりなさい、すぐやらないと夕ご飯は抜きよ」……テレビ→ご飯のように自分がやったことと関係のないものを取り上げられると、子どもは、それを「罰」と感じます。すると、その時点で、素直に受け止められず、反抗心が出やすくなるので、言うことを聞かなくなります。従ってなるべく同類のものを組み合わせることがコツとなります。

EX「テレビを消して、先に宿題をやりなさい。」

すぐにやらないなら、食後のテレビは無しよ」（テレビ→テレビ）

③すぐに行動に移す

「○○しなさい、やらないなら△△だよ」の○○が守れなかったら、すぐに△△に移ります。この「すぐに」が学習効果を高めますので、割り切って実行に移す気持ちが大切です。実行すると、子どもも抵抗感を感じることでしょう。そして「今回だけ、お願い」と言ってくるでしょう。でもグッと我慢。「次の時には、1回で聞くようにしなさい」と次回へのがんばりを促し、妥協はしません。「じゃ、今回だけよ」をやってしまうと「ゴリ押しすれば何とかなる」と学習してしまい、一貫性が崩れてしまいます。すぐに行動を起こすことで、その時は子どもとの関係を損ねることになるかもしれませんが、それは一瞬の通過点です。いったん、きちんと言うことを聞く仕組みができれば、その後、親子共々とても楽になります。

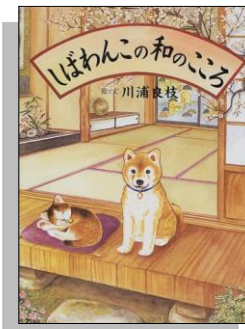
叱るときは感情に流されず、

子どもの将来を見据えた叱り方をしたいものです。



おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



『しばわんこの和のこころ』シリーズ 川浦 良枝/絵と文 (白泉社)

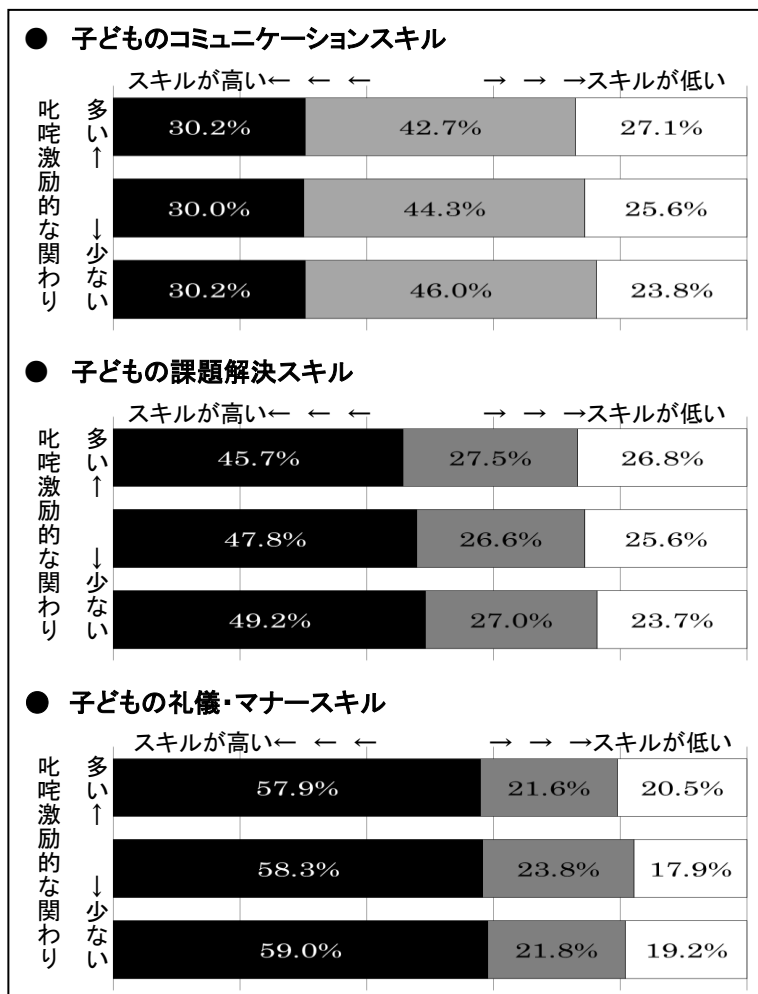
柴犬の「しばわんこ」と三毛猫の「みけにゃんこ」が案内する、「和」の世界へようこそ！ 季節ごとの行事の由来や意味、おもてなしの心を親子で学べる一冊です。かわいいイラスト付きで、日本ならではの暮らしのたのしみや、和の作法について、子どもでも理解しやすくなっています。お正月中にどうぞ。



データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

「叱咤激励」的な関わりと子どもの生活スキルの関係



(独)国立青少年教育振興機構「『子供の生活力に関する実態調査』報告書」(平成25年度調査)報告

左の表は、保護者の「叱咤激励」的な関わりが、子どもの生活スキル習得にどう影響するかを分析した結果です。

ここでいう「叱咤激励」的な関わりとは、「よく“もっとがんばりなさい”と言う」「よく小言を言う」「しっかり勉強するように言う」「子どもと意見が違うとき、親の意見を優先させる」など。調査対象は、小学4～6年生とその保護者です。

生活スキルのうち、コミュニケーション、課題解決、礼儀・マナーの3つを取り上げましたが、いずれも保護者の「叱咤激励」的な関わりと子どもの習得レベルには、何の関連もないことがわかりました。

大人はつつい「できないこと」「やらないこと」に目を向けて、それを言葉だけで解決しようとするが、経験の少ない子どもの立場にしてみれば、「そんなこと言われても……」と、どうすれば良いのかわかりません。

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば人は動かじ」「話し合い、耳を傾け承認し、任せてやらねば、人は育たず」……有名な山本五十六の言葉ですが、改めて「生きる力」を育むためには何が必要かを考えさせられます。

年末年始は、家庭教育の大チャンスです！

年末の煤払い、年越し、年始のあいさつ、おせち、小正月行事など……年末年始は特別な雰囲気がありますし、何より家族の時間がゆっくりとれます。ぜひこの機会に、親子で一年の目標を考えてみましょう。

乳児は 肌を はなすな
幼児は 手を はなすな
少年は 目を はなすな
青年は 心を はなすな

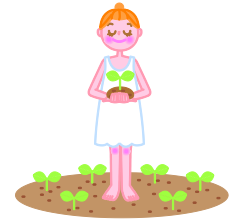
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2016年3月

今年度のテーマは「子育て」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

ほめて伸ばす

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

子育てにおいてほめることと叱ることは、車で言えばアクセルとブレーキのようなものです。良いところをほめて伸ばすこと（アクセル）、いけないところを叱って制御すること（ブレーキ）がバランス良く行われることで、子どもは順調に育っていくものだと思います。

ひと昔前まで、日本の子育ては叱ることのほうが多かったようですが、近年はほめる子育てが主流になってきています。いろいろな考え方があってはと思いますが、叱るよりほめるほうが子どもにとっても親にとっても、心地良いものであることは間違いありません。気持ちよく子育てができる！ いいことですね。

○子どもをほめることで得られる3つの効果

ほめる子育てには、子どもをプラスに導く大きなパワーがあるようです。

①子どもが自信を持つようになる

……いつもそばにいて、一番信頼している親にほめられることで、「やればできる」という自信を持つようになります。

②自己肯定感がはぐくまれる

……親にほめられることで「自分は価値ある人間だ」「自分は大切な存在だ」という自己肯定感が育ちます。

③意欲的に行動できるようになる

……ほめられることで、子どもは意欲的に行動できるようになっていきます。



★ほめる種

ところで、子どもをほめるためにはほめる種が必要ですが、この種は、子どもをよく見ていないとなかなか見つからないものです。時々、（謙遜だとは思いますが）うちの子にはほめるところがあまりないという親御さんがおられますが、アンテナを高くして欲しいものです。見ようと思えば、たくさん見えてくるものです。

★心に届くほめ言葉

心の状態というのは顔の表情や喋り方、仕草など、色々なところに現れるもの。心で思っていないのに、ほめたら良いということではほめ言葉を言ったとしても、子どもは親の心を敏感に感じ取ります。ほめるときは、喜び・愛情を持って心からほめることが肝要です。

★子育ては、ほめて叱って

子育てにおいて、ほめっぱなしや叱りっぱなしは、良くありません。子どもをよく見て、上手にほめ、時々叱って、いい子に育てる。このバランスが大事です。できれば、ほめることの多い子育てにしたいものですね。



おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



『子どもを本嫌いにしない本』 赤木かん子/著 (大修館書店)

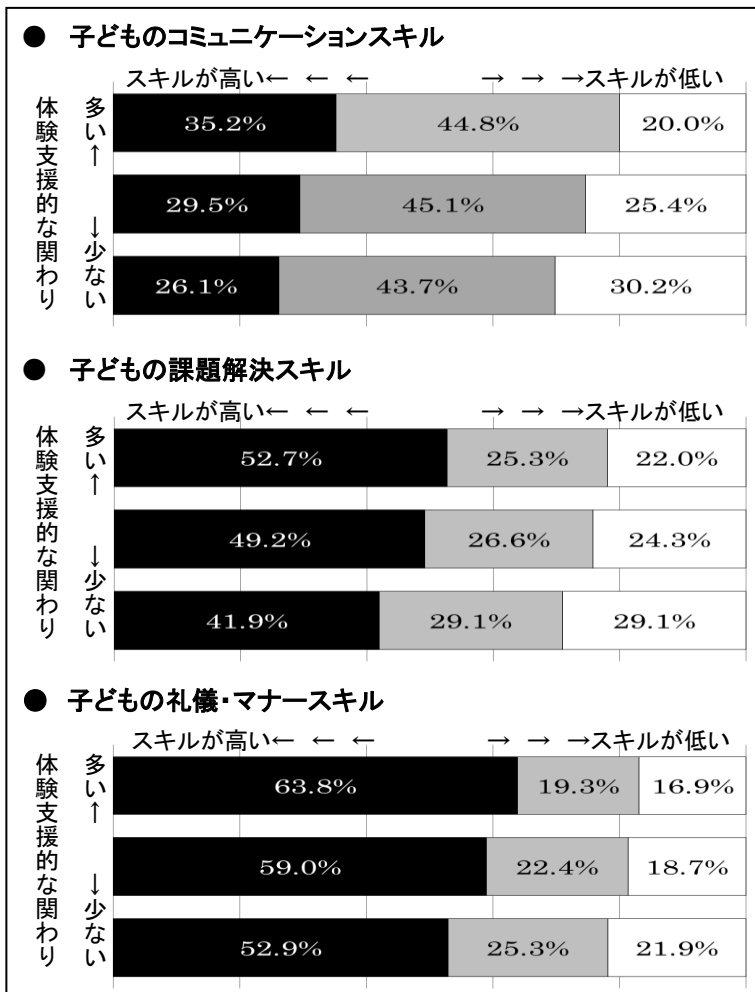
もともと本嫌いな子はいないし、本嫌いに育てたい親はいないのに、なぜ読まなくなるのでしょうか？ この本は、赤ちゃんから高校生になる頃までの、子どもと本との関係についてまとめた「ずっと、本を好きでいてもらうため」の指南本です。百科事典などの使い方のほか、年代ごとのおすすめ本も掲載しています。



データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

「体験支援」的な関わりと生活スキルの関係



(独)国立青少年教育振興機構「『子供の生活力に関する実態調査』報告書」(平成25年度調査)報告

前号で「叱咤激励」的な関わりと子どもの生活スキル習得との関係を取り上げましたが、では、どうすれば子どもの生活スキルは伸びていくのか？ そのヒントを得るため、今号では「体験支援」的な関わりとの関係を取り上げます。

ここでいう「体験支援」的な関わりとは、「勉強以外の様々なことをできるだけ体験させている」「子どものやりたいことを尊重している」「子ども自身でできることは、自分でさせている」「スポーツ以外の趣味と一緒に楽しんでいる」「家の中でルール・約束事を決めて」「よくほめている」など。いずれも、そういった関わりが多いほど、子どものスキルが高い傾向にありました。

「体験支援」と言われると、つい「とにかくいろいろ体験させれば良い」と考えてしまいがちですが、その根底には、子どもの「やってみよう」という気持ちと、親の「必ずできるようになる」という信頼が欠かせません。そして、できたら「ほめる」こと。

「体験」の芽は、家庭の中にも、地域の中にもあふれています。子どもに「やってみる？」とひと声かけてみませんか？

4月は「はじまり」のとき

私たちの社会的生活のはじまりは「4月」です。入学式あり、クラス替えあり、学年も1つ上がり、いよいよ新生活がスタートします。

新しい生活のこと、子どもとの会話を存分に楽しみましょう。

乳児は 肌を はなすな
幼児は 手を はなすな
少年は 目を はなすな
青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp